

令和7年度「スローライフ京都」^{プロジェクト}大作戦推進会議
摘録

【日 時】令和7年5月20日（火） 午前10時30分～午前11時40分
【場 所】京都市役所 分庁舎4階 第1会議室
【出席委員】別紙委員名簿及び座席図のとおり

I 開会

（藤井議長挨拶）

この「スローライフ京都」大作戦（プロジェクト）は、平成23年に「歩くまち・京都」総合交通戦略が策定された際に、3本の柱の1つである「ライフスタイル」の取組として、「歩くまち・京都」憲章の普及・啓発と共に交通行動スタイルを見直していこうというもの。本会議は、行政目線だけではなく、市民、事業者の皆様から、社会学的・経済学的・教育学的な観点で京都の交通の在り方を高度化し、「歩くまち・京都」を推進する趣旨で作られた会議体である。

当会議での御意見は、今年度以降の取組に反映させていただく。忌憚のない御意見を頂戴したい。

II 報告

（事務局）

- ・ 資料3（京都市の取組）に基づき説明

（藤井議長）

この数年間で、学校教育現場でのモビリティ・マネジメント（以下「MM」という。）の取組について広がりを感じている。学校での取組について、水山副議長から補足いただきたい。

（水山副議長）

学校での取組は10年ほど前から始めた。最初の頃は小学校を中心に「歩くまち・京都」の取組を進めてきたが、最近は中学校・高校にターゲットを移している。特に市立中学校社会科の先生の中での認知度が上がってきており、このように地道に取り組むことが重要だと感じている。

また、これまでは、街中の混雑・観光客との共存という内容を中心にして進めてきたが、昨年度は京北や洛西といった交通困難地域を取り上げることで、交通だけの問題ではなく、まちづくり、生活そのものを考える機会にもなった。地域の方がMMに取り組んでいる市

バス特37号系統に係る公開授業を実施したところ、地域の方も見に来ていただいた。地域の方と関わりができるというのは非常に貴重な機会だった。

このように少しずつ定着・発展してきている一方で、小学校が手薄になっているとも感じているため、取組を見直していきたい。

(藤井議長)

教育現場での取組は、当初は意義を疑問視する人もいたが、水山副議長のお話をお聞きすると、非常に意義のあるものであったと感じている。

(山舗委員)

中学生の授業について、地域の公共交通を考える授業は、具体的にはどのような内容なのか。どのような意見が出たのか。

京都リビング新聞社では「バス・タクシードライバー就職相談会」を過去3回実施しており、毎回100人以上が参加されている。令和7年2月に開催した際は、若い人も多く来られており、バス会社への就職につながった例が多かったと聞いている。今年も9月に開催予定であり、MM推進の一助になればと考えている。

(水山副議長)

柊野学区の特37号系統について、地域では、当該系統の維持・確保に向けてニュースレターを発行している。西賀茂中学校では、そのことを取り上げて、地域の方々がどういった思いで、特37号系統を見つめているかを考えるという道德の授業を実施した。生徒の感想では、特37号系統のおかげで、夜遅くになっても通勤者がゆっくり帰って来られる、子連れの方が地域の公園や保育所に行く際にも頼りになるなど、地域の方にとって大切なものであるといったことを上げていた。

生徒が自分たちのことだけではなく、色々な地域の方との関わりを感じていることに感心した。

洛北中学校では、京北地域をモデルに、バスがなくなったら地域がどうなる、病院やスーパーがなくなったらどうなる、といったシミュレーションを行う授業を実施した。非常におもしろく学べる題材であり、地域でもその題材を活用して楽しく学んでいただきたい。このような地域を巻き込んだおもしろい取組が生まれつつある。

(藤井議長)

こうした取組が広がっていくと素晴らしいと改めて感じた。

MMはリビング京都新聞社などのメディアの力もお借りしながら、公共交通利用を促し、地域の機運醸成を目指してきたが、近年は、利用者不足の一方で、運転士不足が深刻で、需要があっても路線を廃止せざるを得ない状況が全国に広がっている。利用者が支えるだけ

ではなく、担い手になってみようと思う市民が増えていくための規範の変化も重要である。京都リビング新聞社の取組も継続・拡大いただくとありがたい。

（北村委員）

以前に比べ、「歩くまち・京都」憲章を見たということも含め、一人歩きをしている視覚障害者に声を掛けていただけるようになっていたが、コロナ禍でそういったことが少なくなり、コロナ禍以降は、観光客の増加で、一層声を掛けてもらえなかったり、白杖に注意を向けてもらえなくなったりしている。観光客に伝えていくことも重要だが、立ち戻って、これから社会を担う子供たちに伝えていきたいと考えている。教育現場での取組のお話をいただいたが、教育現場で私たちの思いを伝えるツールを活用いただいたり、何かの場面で当事者の声を伝えていただくなど、御協力いただきたい。子供や学生に向けて訴え、みんなが歩きやすいまちづくりを実現していきたい。視覚障害者協会としても、こういった発信が効果的なのか共に考えていきたい。よろしくお願いします。

（藤井議長）

ユニバーサルデザイン、バリアフリー教育は学校でも続けておられているところではあるが、是非拡大いただきたい。

「歩くまち・京都」の推進には、ユニバーサルデザインを進めていくことが基本であるため、京都市においてもしっかり認識しつつ拡大いただきたい。関係各位も御協力をお願いする。

（酒井委員）

「歩くまち・京都」憲章の認知度について、当初は多く発信されていたが、ウェルビーイング（地域幸福度）についての自治体調査や総合計画のアンケートなどで、継続的に認知度を調査されてはどうか。

観光客について、京都駅一極集中の取組の成果はどうか。

（事務局）

取組成果を数値等で示すのは難しいが、混雑する清水寺行きのバス乗り場D2の待ち時間については、観光シーズンでも10～15分程度で目立った混雑にはならなかった。引き続き効果検証の指標も考えながら取り組んでまいりたい。

（藤井議長）

効果検証を意識して進めてもらいたい。

昔は「歩くまち・京都」憲章のポスターをよく見たが、最近はあまり見なくなっている。小中学生を含めて周知を図ってもらいたい。

(事務局)

「歩くまち・京都」憲章は環境副読本などで周知しているが、ポスターについては、イベント等での掲出に限られているところもある。今の御意見を踏まえて、改めて認知度を高める取組を進めていきたい。

ユニバーサルデザインや、心のバリアフリーの普及啓発について、鉄道事業者やバス事業者に御協力いただき、心のバリアフリーのポスターを市内79か所で案内している。また、ポスターだけでなく令和3年度にはハンドブックも作成しており、障害者に応じた必要な介助を分かりやすく案内している。そうしたことを丁寧に市民・事業者にも周知していきたい。

(井上委員)

一人暮らしの大学生に向けて公共交通の利用を促進することが重要であると感じている。

また、京都駅一極集中に関して、自身は京都駅で観光案内のアルバイトをしており、「地下鉄・バスナビ」を配ることがある。「地下鉄・バスナビ」は日本語、英語、韓国語、中国語しかないが、スペイン語なども需要が増えており、交通案内について、更なる多言語化も必要と感じている。

(藤井議長)

京都市は他都市に比べて大学生の人口比率が高いため、そこを意識しておくことも重要である。

観光客を対象にしたMM、「歩くまち・京都」の推進は、バリアフリーも含めて重要な課題になってきている。今の御意見を参考に、今年度の取組に反映いただきたい。

(大利委員)

総合交通戦略に沿ってしっかり取組を進められていると感じている。前回開催から、コロナの影響で変わってきていることもあると思うが、コロナ前後で傾向が変わった取組や効果的な取組があれば教えてほしい。

また、MMとまちづくりの連携という観点で、取り組まれていることがあれば教えてほしい。

(事務局)

コロナ禍を経て、昨年度実施した新たな取組として、大学生と連携した取組や、小学生とその保護者を対象に親子で楽しんでいただける取組を実施した。小学生とその保護者を対象にした取組では、アンケートでも参加された方の満足度が高い結果が出ている。今後も、各地域の持つポテンシャルや魅力を生かして、公共交通を利用して地域を訪れ、様々な体験できるという仕掛けを展開していきたいと考えている。また、大学生との取組については、

京都市は人口の1割が大学生という特性があることから、大学生に公共交通機関を利用いただき、大学周辺や沿線の地域を訪れていただくことで、京都の中心部だけではなく周辺部や山間地域の魅力を楽しんでいただく取組や、さらには公共交通や地域のことも学んでいただける取組を展開していきたい。今年度は、こうしたまちづくりにもつながる取組を広げていきたいと考えている。

(大利委員)

近畿地方整備局では、様々なまちづくりに関する支援を行っている。何かあれば気軽に相談いただきたい。

(藤井議長)

まちづくりという点で、「歩くまち・京都」が進めば、中心市街地、商店街の活性化につながると思うので、商店街との連携も進めていただきたい。

(小崎委員)

学校 MM について、子供時代に正しく学ぶことで大人になって正しい理解が育つものである。車に対して理解を深める面から警察が進める交通安全教育や GIGA スクールに取り組んでいきたい。

(中野委員代理)

近畿運輸局環境・物流課で交通環境教室を実施している。昨年度も京都市で実施しており、今年度も京都市と連携し実施していく。

コロナ禍を経て、ここ数年で京都の街中が変わっているという印象である。歩いて楽しいまちから遠ざかっている。お店がなくなり、跡地が駐車場になっていることが一因であり、車が入りやすい環境になっているのではないか。パークアンドライドもぜひ継続して取り組んでいただきたい。

(坂委員)

MM の一環として「きょうとエコサマー」にも取り組んでいる。夏休みに保護者同伴の小学生無料の取組を事業者の全面協力で実施している。実際にバスに乗ってみることが重要であり、そこで生まれる親子での対話など新しい発見がある。実際に乗ってもらう MM についても、引き続き進めていただきたい。

(藤井議長)

学校教育での MM が進んでいる実感も得られ、委員それぞれの立場での御発言から、「歩くまち・京都」が実体化していることを改めて認識した。これからも引き続き皆様に御協力

いただきたい。

Ⅲ 閉会

(事務局)

委員の皆様からいただいた貴重な御意見は、今年度の取組にも生かしてまいりたい。

本日は継続的な取組というのがキーワードだった。行動変容を促すことは一朝一夕ではないことから、長期的な視点で進めることが重要であると改めて認識した。また、京都市内で起きている事象にも目を配り取組を進めてまいりたい。引き続き皆様の御協力をお願いする。